

平成28年度 社会福祉法人 高崎福祉倶楽部 事業報告

平成28年4月1日、ショートステイを長期床転換することにより高崎拠点の特養定員は60名となり稼働率の安定的な管理が可能となったが、軽費老人ホーム以外の在宅サービス部門は目標を達成することができなかった。また、前橋拠点の特養、ショートステイは、人材確保が難しい状況が続いており、目標達成は先送りとなっている。

軽費老人ホームの補助金収入と特養の加算で何とか黒字となったが、労働力の確保と入居待機者確保が引き続きの課題となる。

【事業報告】

① サービスの充実

在宅部門を含め事業所全体が連携、切れ目のないサービス提供を目指すことによりサービスの質は維持できた。

② 人材育成と働きがいのある職場づくり

誰にでもできる新人研修マニュアルによる幅広い人材の受け入れ目指し今後も継続的に、職員一人ひとりが達成感を得られるよう支援していく。

③ 適正な財務管理の推進

介護ロボット等導入助成金により見守りシステム搭載の介護用ベッド（3台×2）を導入した。また、防犯設備の整備助成金を活用し、電気錠、自動ドア、防犯カメラの入替を平成29年度に実施する。

④ 地域ネットワークづくり

ユニバーサル就労の継続的な受け入れ、地域ボランティアによる介護予防や自治会行事への参加。災害時福祉広域支援協定に基づき文書による緊急連絡の訓練実施。

⑤ 施設の改修・保全計画の策定

改修工事は次年度に持越し、中長期的な補修・改修計画の見直しについては継続。

⑥ 社会福祉法人制度改革への対応

行政指導に従い、法人役員等の役割や位置づけの見直しを実施、定款変更が認可となった。

平成28年度 特別養護老人ホーム悠ゆう 事業報告

介護支援専門員を中心に専門職と介護職が協働し、ADL、IADL、口腔機能の維持改善に取り組み、感染症の予防、誤嚥予防を図ることにより目標稼働率を達成することができた。

排泄への取組は、布パンツの利用とおむつの種類を工夫することでおむつの利用軽減を図ることができた。

[目標達成] サービスの質を守るため人材の確保を図ることを目指したが、他職種を目指す就学者、転職者等により減員となった。補充はできない状況にある。

[実施報告]

- 1 新人（中途採用）研修担当者の専任化に伴うマニュアルの見直しを行った。
- 2 中途採用者を即戦力とするためのキャリアパス（処遇改善加算）によるサービス平準化は継続となった。
- 3 地域のボランティアや見学、学生や実習生の受入によるレクリエーションは好評だった。

機能訓練

[目標達成] 一人ひとりの機能維持と自立支援に向けた生活環境の整備については継続実施となった。

[実施報告]

- 1 個別訓練計画に基づき生活リハビリや散歩等を実施、ベランダの整備、緑化等により活動範囲を広げることができた。
- 2 ボランティアの協力によるレクリエーションは好評だった。

給食

[目標達成] 食べる楽しみの提供と経口摂取の維持を目指し、甘酒、カレー等、好まれる献立の工夫、行事食等は好評だった。

[実施報告]

- 1 食事形態の工夫による経口摂取の維持、「食べたい」食事や季節感や生活感のある食事の提供することができた。
- 2 栄養ケア計画に基づき経口摂取機能の適切な評価によるソフト食、酵素等を利用した嚥下食の研究は継続実施となった。

健 康 管 理

[目標達成] 入居者の健康維持と感染症の予防、職員の健康管理を目指し、概ね良好に1年過ごすことができた。

[実施報告]

- 1 入居者の健康管理と観察のポイント、疾病と服薬についての周知は今後も継続する
- 2 看取り、褥瘡予防、感染予防等の施設内研修は計画通り実施
- 3 事故の予防と事故発生時の対応の周知は今後も継続する

特養利用者【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	1701	1783	1759	1815	1800	1690	1804	1780	1809	1804	1637	1785

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用率	94%	95%	97%	97%	96%	93%	96%	98%	97%	96%	97%	95%

平成28年度 デイサービスセンター青葉 事業報告

【事業概要】

① 行事・地域活動

- ・レクリエーションは年間計画通り実施できました。※別紙参照
- ・ボランティアや実習生を積極的に受け入れました。歌とカホン、ラフターヨガ、和の演奏会などを開催しました。
- ・利用者様、家族様、地域の方々等を対象に地域活動として「ハーブ入りアロマ石鹸」や「うで編みマフラー」、「歌って笑って健康体操」を実施し、多くの方に参加して頂きました。

② 施設内・外部研修

- ・介護技術等施設内研修会に約9割が参加しました。
- ・外部研修会に約9割が参加しました。

③ リスクマネジメント

- ・事故報告15件：主なものは食事の提供間違い、送迎車の石や塀への接触等でした。
- ・ヒヤリハット35件：主なものは転倒しかねない行為、歩行器なしでの歩行でした。

いずれも家族様への連絡、報告を行い、迅速な対応に努め、関係部署と連携を図ったことで、苦情にはならなかった。

- ・事故・ヒヤリハット報告書を作成検討、共通認識を深め再発防止に努めました。

【実績】

◇利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
事業対象者	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
要支援	3	2	2	3	3	2	2	3	3	3	1	1	
要介護	13	15	15	14	16	16	15	15	15	13	13	13	
合計	19	20	20	20	22	21	20	21	21	19	17	17	
平成27年度利用者数	24	23	25	24	23	23	23	22	22	21	20	20	

◇利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	11	17	16	16	18	16	16	19	26	22	23	26	226
要支援1	2	4	3	4	3	4	2	4	5	2	0	0	33
要支援2	12	8	5	10	10	5	4	4	14	10	8	9	99
要介護1	44	52	55	57	72	72	48	50	51	54	49	56	660
要介護2	43	43	47	46	57	55	54	67	55	50	46	44	607
要介護3	42	43	38	34	30	28	52	38	34	19	21	23	402
要介護4	7	5	4	4	4	4	4	4	5	8	4	19	72
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(延べ利用者数)	161	172	168	171	194	184	180	186	190	165	151	177	2099
平成27年度利用者数	239	222	229	239	213	220	220	222	229	162	171	173	2539

平成29年3月31日現在

- ・延べ利用者数は前年度対比18%減となり、介護・利用料収入は前年度対比17%減となりました。

平成28年度 年間レクリエーション 実施表

デイサービスセンター 青葉

レクリエーションポリシー

レクリエーションをリハビリテーションの一部と位置づけ、参加しやすい形態で提供し、参加することによりADLの維持を図る
 工作、調理などを通して機能の再獲得を図りながら人生の張りや生きがいを提供するとともに、デイサービス継続の動機付けとする

年間レクリエーション計画

項目 月	長期 レクリエーション	中期 レクリエーション	短期 レクリエーション	季節 レクリエーション	個別 レクリエーション	全体 レクリエーション	地域活動
4月			1 工作:こいのぼり 4 工作:こいのぼり 11 ゲーム:吹いて進め 12:歌のボランティア 18 調理:押し寿司 25 ゲーム:あおいでこぼれ	五月飾り	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		
5月			2 ゲーム:すごろく 5:リハビリ音頭 9 工作:三角巾作り 10:フター3カ 16 調理:こいのぼりワッペン 23 工作:三角巾作り 25:フター作り 28:そば打ち 27:ぞらさんフター作り 30 工作:壁飾り	端午の節句	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		
6月		春から夏・ 秋の花・ ハーブ・ 野菜など	1 工作:壁飾り 6 ゲーム:アイスショットゲーム 13 調理:白和え 20 ゲーム:アイスショットゲーム、20:フター3カ、21:折紙 27 工作:七夕飾り、28:歌とかん	七夕飾り	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		
7月	朝の挨拶時 ■手指運動 ■口腔体操や ラジオ体操等を行う		1 工作:七夕飾り 4 工作:暑中見舞いカキ 8:風船ハレボール 11 ゲーム:風船ハレボール 12:折紙(フター3カ) 15:風船ハレ大会 18 調理:ヨーゼーリ&アイス 25 ゲーム:風船ハレボール 16:ヘルマフープ 26:折紙 28:石鹸作り		毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		28日:25名参加 (内子供8名、 デイ利用者様5名) 「練って作るハープ入り アロマ石鹸」
8月	午後の体操 ■下肢筋力体操		1 簡単調理:かき氷 ゲーム:スパーボールすくい 8 調理:おはぎ(お盆・お盆の儀) 15 ゲーム:スイカ割り 22 工作:フェルトカンザシ、23:歌とかん、25:トランプ他 29 ゲーム:足でねらえ	お盆・おはぎ作り	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル	季節ごとに張り 絵やちぎりの 制作	25日:13名参加 「清涼感ある香りの 石鹸作り」
9月	■タオル体操 ■肩こり予防 体操 ■脳活性化手 指体操 ■尿失禁予防 体操 ■発声訓練		1 ゲーム:足でねらえ 5 工作:敬老の日カード 7:歌のボランティア 12 調理:ほろ酔いうさぎ饅頭 13:折紙 19 ゲーム:風船ハレボール 26 ゲーム:すごろく、27:折紙、歌とかん	十五夜	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		29日:6名参加 「バスフイス作りアロ マストレッチ」
10月			3 調理:さつまいも茶巾 10 運動会 17 工作:工作箱飾り 20:歌とかん 21:大類中学合唱 24 ゲーム:ひつぱれひつぱれ 25:折紙 28:歌のボランティア 29:和の演奏 31 ゲーム:ひつぱれひつぱれ	運動会	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		27日:3名参加 「炭酸入浴剤作り とアロマストレッチ」
11月	掃りの挨拶前 ■歌 ■漢字クイズ ■連想ゲーム ■しりとり ■パタカラ体操		1 ゲーム:巻いてひつぱれ 7 調理:おからの炒り煮 14 ゲーム:吹いて進め 18:フタダンス鑑賞 21 ゲーム:風船ハレボール 22:折紙、歌のボランティア 28 工作:ポインセチア飾り 30:歌のボランティア		毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		17日:22名参加 健康体操 24日:「うで編みで スノード作り」 雪のため中止
12月		冬から 春の花・ など	1 工作:ポインセチア飾り 5 調理:ホットケーキクリスマス 12 工作:干支作り(石けん) 13:折紙 19 ゲーム:すごろく 20:歌とかん 22:トランプ 26 ゲーム:ピンポンボン 28:そば打ち	正月飾り作り	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		15日:9名参加 健康体操 24日:5名参加 「うで編みでスノード 作り」
1月			4 ゲーム:上毛カルタ 4:書き初め 9 調理:けんちん汁 16 ゲーム:だるま落とし 17:そば打ち、トランプ、19:歌とかん 23 工作:鬼のお面作り、27:ゲーム鬼に金棒 30 ゲーム:鬼は外		毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		25日:8名参加 健康体操 26日:2名参加 「うで編みでスノード 作り」
2月			1 ゲーム:鬼は外 6 調理:茶碗蒸し 13 工作:貝の根付け 13:湯呑り 14:折紙 20 ゲーム:記憶ゲーム 22:歌のボランティア 27 ゲーム:知力、投力、時の運	豆まき	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		16日:8名参加 健康体操
3月			1 ゲーム:知力、投力、時の運 6 調理:生八つ橋 13 ゲーム:ホールインワン 14:折紙 20 工作:看板、桜の花作り 27 ゲーム:風船ハレボール 28:折紙	雑祭り	毎 園芸 数字合わせ 大人のぬり絵 絵パズル		15日:14名参加 健康体操

個別レクリエーション

- ・園芸
- ・数字合わせ
- ・総理大臣合わせ
- ・絵合わせ
- ・絵パズル
- ・大人のぬり絵
- ・いきいきカルタ

平成 28 年度 ケアハウス「グリーンガラス」事業報告

<入居者の状況>

現在入所者 17 名（男：2 名 女：15 名） 平均年齢 84 歳

外部サービス利用者：8 割 入院者：2 割（転倒による骨折や体調不良等）

- ・月 1 回以上、健康チェックを行い健康診断の受診を促し疾病の早期発見、早期治療に繋げる事が出来ました。
- ・認知機能、生活機能の低下がみられた入居者に対し迅速な対応に努め、またご家族様への連絡、報告、他事業所等へ状況報告を行い関係機関と連携を図りました。
- ・現在二人部屋 1 部屋空きが続いている。見学はあるものの将来的な利用の希望のみであり契約にはいたっていない。

<事業概要報告>

利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
非該当	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3
要支援	6	6	6	6	6	6	5	5	6	5	5	5
要介護	7	7	7	8	8	11	11	9	9	9	9	9
合計	14	14	14	15	15	18	17	15	16	15	17	17

※月初でのカウントとする。

平成 29 年 3 月 31 日現在

<レクリエーション>

- ・体操（手指・上下肢体操・大人のラジオ体操・パタカラ体操）
- ・健康体操
- ・外出ツアー（浜川公園 花菖蒲見学、はにわの里 コスモス見学）
- ・買物ツアー（南モール、フレッセイ、カワチ、ヤオコー）
- ・移動販売
- ・フラダンス慰問
- ・七夕飾り
- ・音楽会（歌とカホン、和の響き、クリスマス会）
- ・ラフターヨガ
- ・風船バレーボール大会
- ・うで編みでスヌード作り
- ・大類中学校（1 年生）合唱
- ・健康チェック

季節の外出行事や入居者も参加しやすい行事を提供し多くの方に参加して頂きました。

<平成 28 年度 ケアプランセンター悠ゆう 事業報告>

目標である、暮らしやすい地域づくりのために、高齢者あんしんセンターを通して、本人・家族・医療・介護・地域の連携を図り、支援させていただきました。また、研修会や講演会、ケアマネカフェ等に積極的に参加し、地域の情報収集や他事業所の情報交換により、相互のネットワーク構築、新たな知識習得に努めました。

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

	平成 28 年									平成 29 年			合計	割合	平均 介護度
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
事業対象者	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	8.5%	
支援 1	1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	8.5%	
支援 2	5	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2	2	34	12.1%	
支援合計	8	7	6	7	7	7	7	7	7	7	6	6	82	29.2%	
介護 1	7	6	7	7	9	9	7	7	6	5	6	6	82	29.2%	
介護 2	7	6	7	7	6	6	6	5	4	4	4	3	65	23.1%	
介護 3	2	2	2	2	2	2	2	4	6	4	3	3	34	12.1%	
介護 4	1	3	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	18	6.4%	
介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
介護合計	17	17	17	17	18	18	16	17	17	15	15	15	199	70.8%	
合計	25	24	23	24	25	25	23	24	24	22	21	21	281	100.0%	1.56

- ・実績は、引き継ぎ時の担当件数整理、入院・入所による変動で対象人数は 34%減となりました。
- ・特定事業所集中減算に関しては、80%を上回ることなく各事業所との連携を確保しました。
- ・今年度も引き続き、新規利用者獲得に努め、自立支援に向けたケアマネジメントを行う所存です。

平成 28 年度悠ゆうみなみちょう事業報告

入居者一人ひとりに落ち着いた生活環境を提供し、法人理念の具現化を図る。ショートステイの稼働により地域貢献に努める。

[全体目標]

落ち着いた暮らしの提供と明るく清潔な生活環境の整備

[実施計画]

1. 入居者の生活習慣や生活様式を把握し、個別のニーズに沿った支援を行う
2. 「相談・連絡・報告」の徹底による情報共有とチームケアの実践を図る。
3. 利用者やその家族からの苦情や要望等に対して迅速な対応を行う。
4. 地域との連携とボランティアの受け入れを積極的に行う。
5. 業務の分業化を検討する。

[年度目標期達成状況]

1. アセスメントにより個別ニーズの把握に努めるも、対応（ケア）が徹底できていない。また、状態変化や変化するニーズへの対応も不十分。
2. リーダー不在時に情報が伝わらないなど情報共有が不十分。また、担当者会議で決定したケアが実施されないことがあり、そのチェックが必要。
3. 利用者、利用者家族からの生活相談、要望・苦情については迅速を意識して対応した。ニーズはカンファレンス前に聴取できるようにしている。
4. 地域の高校生のボランティアサークルの訪問が2ヶ月に1回から毎月2回の訪問に変更となる。慰問は9月に2件開催した。ボランティア、慰問活動日誌を作成し、活動内容について記録を残すこととした。
5. 業務の分業化の検討はできていない。

[次年度への課題]

1. ケアプランに基づく対応（ケア）を徹底し、実施のチェック体制を作る。また、変化するニーズをケアプランに位置づけ対応（ケア）ができる体制を構築する。
2. 情報の共有を徹底する。担当者会議の位置づけをしっかりと認識し効率的に実施する。ケアプランに基づくケアのチェックを実施する。
3. 利用者、利用者家族からの要望等は、詳細に聴取し、迅速を意識して対応する。
4. 慰問・ボランティアを計画的に増やす。また、外出行事を実施する。
5. 早番、日勤、遅番、夜勤業務を検証し、業務が効率的に行えるよう検討する。
6. 定期的な居室・福祉用具の清掃、福祉用具のメンテナンスを継続する。
現在、事故・インシデント報告が非常に多い状況。中でも知らない間にできた内出血や剥離の報告が多く、予測介護の実践と共にチームケアを実践していく。

[部門別目標]

機 能 訓 練

[目 標]

日々の生活の中で入居者が残存機能を維持出来るように援助する

[実施計画]

1. 余暇活動を充実させ日常生活に機能訓練を取り入れる
 - (1) 午前・午後の活動を日課と業務に位置づける。
 - (2) 個別機能訓練加算が算定できるように体制を整える。
2. 日常生活に即した訓練（起立、歩行等）を行い、残存機能を維持する。
 - (1) 日常生活に即した訓練（生活リハビリ）をケアプランに位置づける。
 - (2) 自主訓練希望者のリハビリプログラムは機能訓練指導員が立てる。

[年度目標期達成状況]

生活リハビリを個別にケアプランに位置づけ実施することになっているが実施にあたっては徹底されていない現状がある。毎日の余暇活動も、ユニット毎に歌や塗り絵、ゲーム等を予定しているが実施できないことが多い。おやつ作りなどの季節行事は計画通りに実施。ボランティアは毎月、慰問はその都度受け入れている。

[次年度への課題]

生活リハビリをケアプランに位置づけ実施を徹底する。日課にレクや作業療法などの活動を取り入れるための業務体制を再検証する。ボランティアや慰問を積極的かつ計画的に受け入れる。

給 食

[目 標]

これまでの食習慣を尊重し、栄養・食事内容の充実を図る。また、食事の時間が楽しみになって頂けるように工夫し提供を行う

[実施計画]

1. 摂食意欲が維持できる食事を提供し、経口摂取の維持に努める
2. 誤嚥や誤飲等の事故の予防
 - (1) ソフト食、ミキサー固形食などの嚥下食の提供
 - (2) 入居者の状態に合わせた食事形態の検討と伴うカンファレンスへの参加
3. 入居者とのふれあい
 - (1) 食事時間に栄養士による喫食調査と定期的な嗜好調査の実施
 - (2) 食事・おやつレク等を通して食べることの楽しさを提供する

4. 適切な食事提供への研究

- (1) ソフト食、ミキサー固形食などの嚥下食の研究及び提供
- (2) カロリー主体ではなく、栄養価主体のメニューを提供
- (3) 地域にある昔ながらの食事、季節感や生活感のある食事の研究

[年度目標期達成状況]

入居者の状態変化に伴う食事形態の対応は、医務、ユニットとの連携により迅速に実施できている。また、形態変更の場合は、管理栄養士が朝昼夕食事時間に状況把握をしている。現在、ソフト食3名、ミキサー食3名の嚥下食を提供。嚥下食やみじん食の見た目で見えが損ねてしまうことがあり、美味しく見える工夫の研究を継続している。

[次年度への課題]

嚥下食の研究を継続する。

健康管理

[目 標]

入居者の自立支援と感染症の予防

[実施計画]

1. 入居者の健康管理及び自立支援
 - (1) 健康管理・定期受診や服薬管理
 - ・入居者の日々の全身状態の観察
 - ・口腔衛生の指導の充実を図る
 - (2) 自立支援・生活リハビリテーションの設定
2. ショートステイ入居者の健康管理
 - ・利用中の健康管理・相談と薬剤管理。
3. 看護・介護の質の向上
 - (1) 職員への疾病と服薬についての研修の実施。
 - (2) 看取り・褥瘡予防・感染予防等、施設内研修会の実施。
 - (3) 事故予防と事故対応の研修の実施。
4. 職員の健康管理
 - ・年2回の健康診断の実施。

[年度目標期達成状況]

概ね計画通りに実施できたが、感染対策や看取りなどの研修会の開催が不十分だった。特に看取りについては、今年度より加算を算定しているため、職員全員が要件等を十分に把握し、医師の指示の基、チーム一丸となり対象利用者を支える体制を強化する必要がある。

[次年度への課題]

感染症対策や看取り、身体拘束廃止、服薬、虐待など看護・介護技術向上のための研修会を定期的、計画的に開催する。

短期入所事業

[目 標]

今年度稼働率常時 50%以上を目指す

[実施計画]

1. 利用者一人ひとりの状態や希望に沿った介護サービスの提供を行う
2. 利用者やその家族からの苦情等に対して適切な対応を行う
3. 利用中の事故防止に努め、事故発生及び緊急時には家族・居宅介護支援事業所への連絡など、迅速に対応する体制を整える
4. 利用者の情報の共有化を図る
5. 在宅介護が継続できるよう、家族の介護負担軽減を図る
6. 地域の民生員や地域包括、在宅支援等の関係機関及び在宅サービス事業者、病院等との連携を図り、地域ボランティア等も積極的に受け入れる

[年度目標期達成状況]

平成 28 年度（4 月～3 月）の稼働率、20.8%。地域の居宅介護支援事業所より、2～3 ヶ月の長期利用含む紹介を頂けるようになっているが、件数少なく、目標稼働率へは遠く及ばない状況にある。

[次年度への課題]

外部支援事業者や医療機関への営業活動を行い、新規利用者の獲得に努める。特に、地域の介護支援専門員の方々に利用頂けるよう、急な依頼にも極力対応し、定期的訪問により、協力体制の基盤を築いていく。さらに、法人本部と居宅介護支援事業所に協力頂き、安定的な利用者数を確保する。

平成 28 年度実績 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
入居 (人)	0	1	1	0	0	1	3	1	0	4	0	2	0	7	10
退去 (人)	0	1	2	2	1	2	8	0	2	1	2	2	4	11	19
要介護 1 総数	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	56	62	241	424
要介護 2 総数	360	372	360	359	310	270	2031	248	240	248	233	140	155	1264	3295
要介護 3 総数	546	620	630	621	651	630	3698	713	668	766	782	700	775	4404	8102
要介護 4 総数	634	620	579	605	595	554	3587	496	479	465	465	448	425	2778	6365
要介護 5 総数	450	465	418	414	403	420	2570	471	480	488	465	420	461	2785	5355
総数	2020	2108	2017	2030	1990	1904	12069	1959	1897	1998	1976	1764	1599	11193	23262
月総数 (定員×月日数)	2100	2170	2100	2170	2170	2100	12810	2170	2100	2170	2170	1960	1878	12448	25258
月別稼働率 (%)	96.1	97.1	96.0	93.5	91.7	90.6	94.1	90.3	90.3	92.1	91.1	90.0	85.1	89.9	92.1
月別平均介護度	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5

入退去状況：入居 10 人・退去 19 人 稼働率：92.1% 平均介護度：3.5

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
新規者 (人)		5	1	0	1	0	7	2	1	2	2	1	0	8	15
終了者 (人)		0	2	1	0	0	3	0	0	1	0	2	2	5	8
予防総数 (人)		12	1	0	0	0	13	0	0	8	10	0	0	18	31
介護総数 (人)		39	26	38	39	48	190	55	78	110	70	67	95	475	665
総数 (人)		51	27	38	39	48	203	55	78	118	80	67	95	493	696
月総数 (定員×月日数)		310	300	310	310	300	1520	310	300	310	310	280	310	1820	3340
月別稼働率 (%)		16.5	9	12.3	12.6	16.0	13.3	17.7	26.0	38.1	25.8	23.9	30.6	27.1	20.8
月別平均介護度		3.0	2.0	3.0	2.5	2.5	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6

短期入所事業

新規利用状況：新規 15 人・終了 8 人 平均稼働率：20.8% 平均介護度 (予防除)：2.6